



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○興味・関心を引き出すために、体験的な学習を多く取り入れる。 ○授業のねらいを明確にし、見通しをもって分かりやすい授業を展開する。 ○数学科と英語科で習熟度別少人数授業を実施し、生徒の個々の能力を伸ばさせる。 ○9年間での継続的な学習指導の工夫を小学校と連携し推進する。 ○授業評価アンケートを実施し、授業改善に努める。	○朝読書を通して、読解力と豊かな感性を育む。 ○長期休業日等に学力補充教室を実施し、放課後の質問教室・学習相談を充実させ、学力向上に努める。 ○小学校と連携して課題改善カリキュラムを作成し、9年間を見通して表現力の伸長を図る。	○授業公開を設定し、アンケート等で外部の声を授業改善に生かす。 ○研究授業を積極的に実施し、OJTにより教員の授業力向上を図る。 ○指導法・評価法の研修を実施し、教員の資質・能力の向上を図る。 ○小学校との一貫・連携の研究として研究授業を相互で実施、言語活動を充実し思考力、判断力、表現力の伸長を図る。	○最初の授業でガイダンスを行うことや、ガイダンスシラバスを作成し配布することで、生徒・保護者に評価の方法について明確に示す。 ○年間指導計画・評価計画に基づき、より客観性・信頼性のある評価・評定を行う。 ○全生徒を対象に授業評価を実施し、授業改善に生かす。	○開かれた学校づくりを推進する。 ○外部講師を活用した講演会等の充実を図る。 ○学校地域連携事業として地域の人材を積極的に活用し、授業や学力補充教室の充実を図る。 ○学校だけでなく、学校ホームページの内容を工夫し、充実させる。